

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 かたくり)

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	平成 30年 3月 28日	開設年月日	平成 26年 6月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あふれる商業施設が立ち並ぶ地域の中に当事業所があり、近隣のスーパーへ利用者の方と買い物に出掛けるなど地域の方々と関わりが持てるように配慮しております。また、隣接する地域密着型特養・母体介護老人保健施設へ外出したり、ホームに隣接する事業所の職員や地域の方と朝の挨拶などを行い交流を図っております。
各ユニットには菜園があり、その成長と一緒に眺めたり手入れをしながら会話を楽しみ、収穫した野菜と一緒に調理しながら季節を感じて頂けるように関わりを持っております。
テレビ体操やリハビリ体操を毎日取り入れ健康維持に努め、カンファレンスやケア検討会議等ではその方の思いや願いを汲み取り、そしてその思いや願いを大事にしながら利用者皆さんが生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援しております。
法人内5棟のグループホームがあり合同で研修会を行いスキルアップに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は多様な介護サービスを運営しており、その経験や連携体制が事業所のサービスの質の向上に繋がっている。職員の自己評価が職員の力量の把握や働きながらトレーニングする機会となり、5棟のグループホームの研修は事業所の現状や課題に応じた実践的な学びの場となっている。法人によるアンケート調査による苦情、意見等は見やすい場所に掲示し、利用者のみならず外部者にも理解を頂くよう取り組んでいる。緊急時のため各居室には利用者の避難方法や所在確認のための工夫がされている。昨年の課題に積極的に取り組み、地域との交流も拡大し、また、利用者の思いの把握に向けた取り組みも、職員みんなでアセスメントすることで「気づき」が深まり、介護計画の作成にも役立っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 4月 24日	評価結果決定日	平成 30年 5月 10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム設立時職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示し、年に1度理念の見直しを行い自分達の目指すケアの確認を行っている。各個人のネームの裏に挟みケアの方向性に迷ったりした時には理念を確認し本人に寄り添ったケアや理念に繋がる様にしている。	毎年一度、理念の実践状況の確認を含め話し合いを行っている。理念を見やすい場所に掲示するとともに、ネームプレートに挟み携帯し、職員の共有と実践に繋げている。管理者は居心地よく暮らすために職員の声掛けの大きさや利用者同士の関係に気遣う姿に、「その人らしく安心して暮らしていけるように寄り添っていく」姿を感じている。職員は利用者の話を聞き寄り添いながら、楽しみごとを大切にその人らしく暮らす「笑顔あふれる暖かい我が家」を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会主催の廃品回収では古紙を提供している。また地元神社例大祭では、黒獅子と共に子供神輿もホーム前まで来て頂きご祈禱して頂いていた。職員のみ参加であったが、さいとう焼き、神社の清掃、地域防災訓練への参加、また、傾聴ボランティアや保育園児の慰問の受け入れ、年末の餅つきには地域の方を招いて開催している。	昨年目標達成計画に従い、外出等の際の地域の方への挨拶、認知症への理解や支援方法の伝達、広報誌の配布、小中学校との交流の拡大などの努力をしたことがうかがわれる。事業所職員の地域防災訓練への参加や、餅つき大会への住民の招待など、地域との交流を大切にしている。職員も「住み慣れた地域で居心地よい環境」作りのため、地域住民への挨拶や、訪問者への対応などを、理念の実践として普段から努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム運営推進会議にて利用者との関わり方や毎日の生活の様子をお伝えし、また、受診の付き添いや一緒にスーパーへの買い物などの外出時には自分達の対応の仕方から支援の在り方を地域の方に理解して頂けるように働き掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センターの市職員、民生委員、家族代表の方が委員となり2ヶ月に1回定期的に開催している。運営や活動、利用者の状況等の報告を行い委員の方より意見や質問、地域の情報を頂いている。地域の行事や取組みを伺いサービスの質の向上に繋げている。又、民生委員、家族代表からも要望や質問を行う等自由に意見交換の出来る場として努めている。</p>	<p>市職員、民生委員(地区長)、家族代表で2か月に一回開催している。会議では、事業所の状況、行事、研修の成果、事故の報告などが行われている。委員からは、避難訓練や地域の情報等が意見として出され、双方向的な会議となっている。また、避難訓練や餅つきの行事等に参加頂き、実際に事業所の生活や取組を実際に見ただき、実践的な会議になるような工夫もみられる。</p>		
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にて毎回市職員より情報を頂き、課題について意見交換を行っている。その情報を基にサービスの質の向上に努め、市との協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>市職員からは運営推進会議等で事業所の現状や取組を見ていただいている。利用者や運営等個別の問題には、担当窓口と直接話し合い、問題解決に向け協力関係を大切にしている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人主催の研修会に参加した職員よりスタッフ会議において伝達研修を実施し資料を確認するなど知識と理解の向上を図っている。また、職員間でも常に話し合い利用者の立場となって考える場を持ちご利用者がのびのびと生活して頂けるような環境作りを心掛けている。また、更衣室には身体拘束禁止行為の資料を目につく所に掲示し、職員への意識付けを行っている。</p>	<p>研修会や資料等の掲示、法人の委員会活動により、身体拘束について職員に周知している。職員も禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。法人の5ユニットによる会議では、危険予知をテーマとする話し合いがあり、実践的な学びを行っている。職員も利用者の危険に繋がる行動を安易に否定するのではなく、寄り添いながら見守り、話し合いの中で情報を共有し安全を確保することで、不適切な対応のないよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人主催の研修に参加した職員がスタッフ会議にて伝達研修を行い学べる機会を設けている、また、日頃から職員間でも相談しやすい環境を作りケアの方法について話し合い防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度は、実施する機会がなかったが、次年度は職員の知識習得をする事でスキルアップが図れるように実施していきたい。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、必ず契約書、重要事項説明書の説明を行い署名と捺印を頂いている。また、変更があった際には事前に電話をした上で、ご家族と落ち着いた環境の中で説明を行っている。質問に対して納得して頂ける返答が出来るように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を行い、家族代表の方に意見や質問、要望を頂く場を設けている。また、年3回行われるご家族参加の行事や受診や面会等の訪問時において個々に会話をしながらご意見や要望をサービスに繋げている。また、ホーム内に意見箱を設置し自由に投稿して頂けるよう準備している。	2年に一度法人によるアンケート調査が行われ、頂いた苦情、意見等を見やすい場所に掲示し、利用者、職員のみならず外部者にも理解を頂くよう取り組んでいる。年三回の家族と共に行われる行事で情報交換の場を設けるなど、意見等を表しやすい関係の構築に向け努力している。職員も家族の面会時等は意見等を頂けるよう、積極的にかかわっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して悩み・方向性の確認など随時管理者やエリア部長へ相談し助言を頂き職員へ伝達している。また、毎月のスタッフ会議で意見や提案を職員間で話し合いながら、サービスの向上や敵位に反映させ、会議以外でも気軽に話し合える環境づくり、口頭や伝達ノートにおいて情報共有しながら反映に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長と面談を行う機会を設け、また、日頃何気ない会話の中から不安や悩み、意見や要望を確認している。行事や業務を通じ、職員の努力と実績の把握を行いながら各自が向上心をもって働ける職場環境づくりに努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育委員会、グループホーム5棟合同研修会に参加し個人のスキルアップやチーム力のアップへと繋がるよう努力している。また、介護計画作成時には計画作成担当者から担当職員に対して「見る視点」などを伝えたり、毎日の業務の中でその方の困り事を一緒に考えるなどOJTを活用しながら職員育成に繋がるようにしている。希望すれば研修参加への支援も行っている。	毎年職員が自己評価を行い、管理者等と面談し話し合うことで職員の力量の把握や向上を図るなど、働きながらトレーニングする機会を作ることに努力している。法人による年間の研修計画や5棟のグループホームの研修が行われている。グループホームの研修は、センター方式、看取り、危険予知等、事業所の現状や課題に応じた実践的な学びの場となっている。法人による資格所得の支援の仕組みも出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人5棟のグループホームで定期的に合同の研修会を行いスキルアップへ繋げている。また、山形県グループホーム協議会置賜ブロック会に加入しており、ブロック会の定例会議・交換実習・交流会へ参加し、他事業所との交流を図り良いところなどを取り入れたりしている。	山形県グループホーム連絡協議会や置賜ブロック協議会による、会議、研修会等に参加して情報を交換している。交換研修では、他事業所での研修の成果を事業所内で活かしサービスの向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望を受け施設への訪問や自宅への訪問を行い、本人の要望や困っている事等、本人の思いを汲み取れるよう努めている。不安が軽減されるよう見学の受け入れや家族よりセンター方式のシートに情報を記入して頂き、希望や不安を事前に把握して、入居される際には安心して入居できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っている事や困っている事を伺い、安心して頂けるように努めている。家族との話し合いの中で今後の方向性について一緒に考えながら要望を組み入れ良い関係が築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族との話し合いの中で、必要としている支援は何かを考え心身共に穏やかに過ごすことが出来るよう努めている。環境の変化がなるべく少なくなるよう在宅生活中のケアマネージャーと連携を図り、本人、家族の思いを伺い、必要なサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「笑い声あふれる暖かい我が家」を理念・業務目標とし、個々の状態を把握し環境を整えながら穏やかに安らげる様な生活を送る事が出来るよう配慮している。色々な場面で共に暮らす同士の関係を築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話などでホームでの様子を伝えたり情報交換をし、利用者の立場になって家族と一緒に考え信頼関係が築き、理解を深めるよう努めます。居室でゆっくり過ごして頂けるよう、椅子を準備し環境を整え家族の来訪時に一緒に過ごして頂く。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の訪問時は、ゆっくりと会話ができるように居室の環境を整えている。家族と外出したり、イベントや四季折々の場所へ出掛ける機会を設け楽しんで頂けるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が築けるよう個々の個性を活かし、食席にも配慮している。お茶会やレクレーションを通してお互いの事を理解し認め合う関係性ができるよう努めている。職員が入り入居者間の会話の橋渡しをし、関わりやすいように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方へ面会に行ったり入院退去された方のお見舞いに行き、本人の状況を把握している。家族と会った際は、情報交換を行い交流を図るようにしている。相談があればいつでも受け入れる事が出来る体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中でのその方の言葉や表情を毎日記録して気持ちを汲み取れるように日々のケアの実践を行っている。センター方式を活用して思いや願いこれからやりたい事の把握を行い職員が情報の共有をしながらケアにあたっている。その都度信頼関係を築けるように努めている。	昨年の目標達成計画に従い、センター方式アセスメントの理解を深めるとともに、一人の利用者を職員みんなでアセスメントシートに記載し、多角的な視点で見ることで利用者の思いを把握し、暮らし方の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活中のケアマネジャーや家族へセンター方式のシートの記入を依頼して、これまでの生活環境、利用者、家族の思い、生活スタイル等記入して頂き職員1人ひとりが適切なケアが行えるよう努めている。家族面会時には、疑問点があれば確認して職員間で情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調や生活リズムに合わせて作業を提供し作業を通して残存能力等の現状把握に努めている。1日の過ごし方や生活リズムを把握し体調の変化が見られた時は早く気づく事が出来るように状態観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式C-1-2シートを皆で作成して利用者の意向を職員全員の目で見ることが出来るように現在の課題や利用者の思い、希望を汲み取ったケアプランの作成に努めている。家族と利用者の気持ちを聞きケアプランに活かしている。</p>	<p>毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に計画の評価を行い、6か月毎に再アセスメントをし、サービス担当者会議を行い計画の見直しを行っている。利用者それぞれの出来ることや好きなことを活かし、現状に応じた計画の作成に努力している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランの実施状況や言葉、表情、心身の変化等記録し情報交換に努めている。3ヶ月に1度ケアプランを評価しながら実施状況を確認し見直しを行っている。ケアの中で気づいた時などは、伝達ノートに記録して職員間で情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>夏祭りでは、館町エリアの催し物として各事業所がまとまって準備を行い地域の方、家族の方にも参加して頂き楽しい時間を過ごす事が出来た。地域ボランティアの協力を得る事は出来なかったが推進委員の方を餅つきのに招待し一緒に楽しむ事が出来た。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅時からのかかりつけ医へ定期的な受診を行っている。日常生活の様子や身体の状態や変化等を、受診時連絡表に記入し家族が持参し主治医より指示を受けている。家族の付き添いが困難な場合や状態の変化により職員が受診付き添いも行っている。主治医への電話で相談する等の対応も行っている。</p>	<p>利用者や家族の希望に応じかかりつけ医との連携を図っている。原則は家族による通院支援であるが、状況に応じて事業所でも支援している。通院の際には受診時連絡票を介して医療機関、家族、事業所での情報の共有がなされ、安心して医療が受けられる体制を作っている。受診時連絡票は、事業所内での利用者の状況が丁寧に記載され、医療機関から指示等も記載されている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関として介護老人施設保健施設リバーヒル長井、置賜総合病院、さいとう歯科医院と協力提携を結んでいる。また、医療連携看護師の配置により週1回の健康管理を行っている。状態の変化時は速やかに相談助言を頂き状態に応じて置賜総合病院へ搬送を行う体制をとっている。急を要する場合はエリア看護師の協力も頂けるようになっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な情報を医療機関へ提供し入院中の利用者の状態の変化や治療の様子を医療機関先への訪問や家族等からお聞きする等して情報を得ている。また退院時には、主治医、連携看護師、家族と共に今後の方向性や方針と一緒に考え相互に不安のないように話し合いをもっている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携看護師の配置により看取りケアが行えるようになった。現在の所対象者はおられないが、利用者や家族の希望を確認しながら今後その様な状況にもスムーズに対応出来るようマニュアルの確認、学習会を行っていく。重度化対応指針を基に家族に十分に説明をし共通理解を得るように努力している。研修で職員の知識理解の促進を図っている。</p>	<p>法人の他のグループホームでの経験を活かし、看取り等の対応へ体制の整備が行われている。早い段階から家族等と話し合い、重度化や終末期への方針の共有を行い、段階に応じて話し合うこととしている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルに基づき事業所独自で1～2ヶ月に1度訓練を実施し、実践力を身につけられるように努めている。また、緊急搬送のマニュアルをすぐに確認できる場所に明示している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防署の指導を得て総合的な訓練を実施している。その際には、運営推進委員の方にも参加して頂いている。また、事業所独自に安全確認をしながら毎月基本的な訓練も行っている。地域防災訓練にも参加し地域住民と共に災害時の避難訓練を学ぶ事が出来た。災害時についてもマニュアルを基に実施している。</p>	<p>年2回の総合訓練のほか、事業所でも実践的な訓練が行われている。訓練には推進会議の委員にも参加いただき意見等を頂戴している。今年度は水害等への対応も計画されている。各居室には緊急時の利用者の避難方法や所在確認のための工夫が見られる。また、地域の防災訓練にも参加し地域との連携を深めている。広域災害のための備蓄も準備されている。</p>		
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は、人生の先輩である事を常に意識しながら個人の人格を尊重し声かけや関わりについて配慮している。また、利用者の立場になって対応できるよう心掛けている。ユニットの会議でも声かけの方法や関わり方について話し合いをもち、尊厳やプライドに配慮したケアに活かせるように努めている。</p>	<p>人生の先輩であることを意識しながら、利用者の立場に立って考え接することを心掛けている。職員は利用者をよく理解してそれぞれに応じた対応を心がけ人格を尊重している。不適切な対応がないよう普段から職員同士で注意し合っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の思いを汲み取りながら個々の思いを表現出来るように環境作りを行い自己決定出来るように尊重している。また、入浴時には、本人の着たい服を選んで頂いている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしく生活が出来るように、希望や体調に合わせて食事の時間を遅らせたり、入浴の際には希望の時間や曜日の選択して頂くなど自分のペースで過ごせるように安全を確保しながら環境に配慮し関わりを持っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台の脇には櫛や化粧水などが入ったご本人の洗面かごを準備している。、毎日個々の可能な範囲で整容を行い、届かない所は支援をしている。月1回の床屋も利用者の希望を伺いながら実施しており、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しでも季節感を感じて頂けるように、行事メニューや旬の食材を使うなどして工夫している。本人の嚥下の様子や嗜好などに合わせ、代替品を準備したりしながら手作りで温かみのある食事を楽しめるよう支援している。	三食とも事業所内で調理している。ユニット毎に利用者の希望や季節感を取り入れ献立が作られている。畑からの収穫物を利用したり、利用者にも調理の過程で味見に加わって頂いたり、茶碗拭きをしてもらったり、生活感のある食事になるよう工夫している。嗜好に応じて代替食の対応も見られた。昼食のメニューも、バラエティーに富んでいる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、力、習慣に合わせて食事形態を変え対応している。食事摂取量、水分摂取量が必要な利用者には、その都度記録を通してスタッフ間で申し送りをしながら把握に努め、必要に応じ母体やエリア内管理栄養士、言語聴覚士に相談助言を頂いている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声掛け介助を行っている。口腔内に異常があった際には、母体の歯科衛生士に相談出来る体制をとっている。義歯の不具合が生じた際は、ご家族に相談し歯科受診、または往診へと繋げている。義歯洗浄は、週2回実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の表情や行動を観察しながら、声掛けや誘導をしている。職員間でも、尿量や排泄状況を確認しながら利用者のADLにあったオムツ類の使用が出来るように心掛けている。	排泄パターンを把握し適時の誘導を行いトイレでの排泄の支援を行っている。なるべく利用者の残存機能を生かした支援を行うことで、自立に向けた工夫を行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時や食事の際にオリゴ糖入りの牛乳の提供や腹部のマッサージを行い、便秘の予防に努めている。また、水分を多く摂れるようお茶会時には、2服飲んで頂けるよう声掛けを行っており、自然排便に繋がるよう努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に事前に利用者に伝え確認を行い、希望に合わせて実施している。利用者に確認しながら共に衣類を準備し、入浴中は安全に気持ちよく入浴できるように努めている。	利用者の希望や状況に合わせて入浴の支援を行っている。入浴を好まれない方にも、声掛け等を工夫して清潔を確保している。身体状況に応じて機械浴を使用し、安心して入浴できるよう支援している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は、利用者に確認しながらフロアで過ごして頂いたり、利用者の希望に添って臥床する等対応している。一人ひとりに合った、照明具合や居室の温度、湿度の調整を行っている。また、職員の足音や物音をなるべく出さないよう心掛け、安心して頂けるよう配慮している。自宅で使用していた湯たんぽや電気毛布等継続して使用されている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員二人で処方箋を確認しながら薬を準備し、内服の際には薬一覧表を確認し、名前や確実に飲み込んだかを確認し誤薬、服薬忘れ防止に努めるよう心がけている。薬の変更時には、利用者の体調に変化がないか確認し記録に残すよう対応している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯物たたみ、貼り絵、塗り絵等の作品作りを日々の生活の中に取り入れて利用者の経験や得意分野を活かすよう工夫し、生きがいを感じたり楽しく生活を送る事が出来るよう支援を行っている。当日の献立書きを自分の役割として日課の中に取り入れる工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常日頃から、天候の状況をみながら個別に散歩など外に出て外気に触れる機会を作って外出支援を行っている。季節の行事、お祭りを見たり、法人の文化祭見学など外に出て気分転換できる機会を作っている。また、家族の協力を得て受診や自宅に出掛けるなど日常的に支援を行っている。	花見など季節感のある行事としての外出のほか、個別で文化祭見学や買い物などの支援も行われている。ユニット毎に畑、庭があり、戸外で作業し外気に触れる機会を作っている。家族の協力を得ての外出や外食も支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理出来る方は、現在はおられないが、出来ない方はホームの金庫にて現金預り証に記入し管理をしている。また、買い物の機会が減ってきておりご自分で品物を選んで購入する機会が得られなかった。 体調と天候をみて個別での外出をする機会を設け楽しみを持った生活を送ることが出来るよう支援していきたい。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などから掛かってきた電話を繋ぎお返しをされたり、お正月には年賀状を準備しご家族や親類、友人との関係性が途切れないように支援している。また、ご息さまより届いたはがきを職員と一緒に読み近況の把握や昔話をするなど楽しい時間を一緒に過ごしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下には季節感を感じられる生花や装飾を飾ったり、入居者が共同で作成した思い入れの有る作品が飾られている。温度、湿度は毎日定時で確認を行い適切に管理されている。柔らかな色使いやレースのカーテンを使用し適度な日差しが差し込むようにしている。冬季間は、各居室やフロアにも加湿器が設置されており何処にいても湿度管理が行えるよう努めている。利用者は、それぞれの思いの場所でゆっくりと話しをしたりして寛いでいる。	居間・食堂は毎日の清掃で清潔感があり、温度や湿度は定期的に管理されている。食卓やソファ、畳とそれぞれが思い思いの場所で過ごせるよう整備されている。利用者の作品や季節感のあるものが飾られ家庭的な空間であった。ユニット毎に庭(畑)があり、季節を実感できる。各居室の入り口には、非常時のための避難方法等の掲示があり安全にも配慮されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置は、利用者同士の関係性を考慮し、居心地よく過ごせるように配慮している。キッチン前に昇降テーブルを設置し、利用者と一緒に作業を行ったり、調理の際に味見をしたりして頂いている。畳敷きの和室空間には、ソファやテレビが置いてあり、自由に座ったりする事が出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドとタンスが備え付けてある。自宅で使い慣れた枕や毛布、鏡や椅子などを持ち込まれ居室の壁面には家族との写真等が飾られてあり馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるような空間で過ごす事が出来るよう配慮している。	テレビや荷台など在宅での使い慣れたものや馴染みのものが持ち込まれ、また、家族との写真が貼られたり、思い思いの飾りつけや小物等が配置されたり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の体型にあったテーブルで食器拭きなどの作業を行いやすいように調節を行っている。各居室には名前のプレートが明示しており他の方との区別が付きやすいようにしている。洗面所の個々のかごには、愛用のくしや化粧品などをいれておく事が出来、いつでも自由に使えるよう配慮している。 各居室のカーテンも柄や色を変え自分の居室が分かり易いような造りになっている。	/	/